

令和 6 年 5 月 1 日現在

機関番号：12603

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12519

研究課題名（和文）ムガル宮廷における翻訳活動 『ヨーガヴァーシシュタ』ペルシア語訳の研究

研究課題名（英文）A study in the Mughal Persian translations of the Laghu-Yogavasishtha

研究代表者

小倉 智史（Ogura, Satoshi）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：40768438

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ヴェーダーンタ思想の重要なテキストである『ヨーガヴァーシシュタ』の、ムガル宮廷で編纂された3つのペルシア語訳、およびそれに派生して編纂された小さい作品群を対象とした、翻訳文献研究である。主たる対象となったのは、サリーム皇子の命令で編纂されたパーニーパティー版、アクバル皇帝の命令で編纂されたファルムリー版、そしてダーラー・シュコーの監修による版である。未校訂であったファルムリー版の校訂作業を、ダブリンとラホールに所蔵されている写本を基に進め、また原典におけるヴェーダーンタ思想や、生前解脱の思想がどのようにペルシア語で表現されているかを分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題の助成期間中に、予定していたファルムリー版ペルシア語訳の校訂作業を終えた。既に校訂テキストが出版されていたパーニーパティー版、ダーラー・シュコー版と比較して、ファルムリー版のテキストはダブリン写本に挿入されている絵画の美術史的研究を別とすれば、先行研究において分析対象とはなっておらず、本課題で作成した校訂テキストが発表されれば、今後広く研究の発展に貢献する。また、複数の翻訳テキストの文章を比較したことで、これまでヴェーダーンタ思想とイブン・アラビーの存在一性論の近接といったような主張がなされていた先行研究の議論に、各々の翻訳者が採った翻訳ストラテジーの違いを明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：This research focuses on the three Persian translations of the Yogavasishtha, an important text of Vedanta thought in the medieval and early modern periods. These translations were compiled at the Mughal court. This research also dealt with a collection of several small works relevant to these translations. The main targets were (1) the Nizam al-Din Panipati version compiled under the order of Prince Salim (future fourth emperor Jahangir), (2) the Farmuli version compiled under the order of the third Emperor Akbar, and (3) the version supervised by Dara Shukuh, possibly compiled by Banwali Das. The researcher prepared an edition of the Farmuli version based on manuscripts held in Dublin and Lahore. The researcher also analyzed how the Vedantic philosophical concepts and the idea of liberation during life are expressed in Persian in the original text.

研究分野：アジア史・アフリカ史

キーワード：ムガル帝国 ヨーガヴァーシシュタ ヴェーダーンタ ペルシア語 翻訳

1. 研究開始当初の背景

南アジアのムスリム政権における翻訳活動については、その文化史上の重要性が20世紀初頭から指摘され続けてきた。しかし、翻訳文献の原典との比較対照を行うには、サンスクリット、アラビア語、ペルシア語の語学に加えて、サンスクリット学とイスラーム学両方の知見を必要とすることから、これまでの研究は僅かな例外を除いて、どのような文献が翻訳されたのかを列挙するにとどまっていた。幸い2010年代に入り、ペルシア語の翻訳文献、インド的学知を扱った文献を網羅的にサーヴェイし、その知的受容の様相を解明しようとする国際共同研究プロジェクト“Perso-Indica”が、パリ第3大学を拠点として発足した。更に、2016年にはAudrey Truschke, *Culture of Encounters: Sanskrit at the Mughal Court*, Columbia University Press が出版された。同書においてTruschke はムガル帝国宮廷下で翻訳された『マハーバーラタ』『ラーマヤナ』ペルシア語訳の原典との比較対照を行っている。世界的にも今まさに南アジアの翻訳活動を研究する機運が高まりつつあるが、翻訳文献の総数に比して研究の蓄積は少なく、翻訳活動の全容を解明する道のりは長い。

2. 研究の目的

本課題の研究者は、これまでカシミールのサンスクリット歴史書とそのペルシア語訳を対象として研究を進めてきたが、上記の研究背景に鑑みて、これまでの研究をさらに発展させて、ムガル帝国宮廷で複数回翻訳された、『ヨーガヴァーシシュタ(ヴァシシュタ仙のヨーガ論)』のペルシア語訳を対象として、ペルシア語訳の基礎的な文献学的研究はもとより、ペルシア語訳においてサンスクリット原典の諸概念がどのように翻訳されているのかを明らかにする。本研究の成果を踏まえて、南アジア・イスラーム文化における翻訳文献研究を国際的に推進していくものである。

3. 研究の方法

『ヨーガヴァーシシュタ』は、『ラーマヤナ』を主題とした、ラーマと聖仙ヴァシシュタとの対話を通じて、解脱への道を辿っていく作品である。同作品は中世・近世南アジアのムスリムによってスーフイズムとの思想的な類似が見出され、ムガル帝国宮廷においては、(1) 皇子サリーム(後の第4代皇帝ジャハーンギール)の命によるパーニーパティー訳、(2) 第3代皇帝アクバルの命によるファルムリー訳、(3) 皇子ダーラー・シュコー訳の都合3種類の翻訳が編纂された。更に申請者は、カシミールでの写本調査のなかで、上記3つの翻訳のいずれとも異なる、アクバル宮廷の翻訳者・詩人ファイズイーに帰される、第4の翻訳の写本を発見した。以上4つの翻訳が研究対象となる。

本研究は以下の研究方法を軸として実行される。(1) 未だ校訂出版されていない、ファルムリー約のテキストを、ダブリンとラホールに所蔵されている写本に基づいて校訂する。(2) 『ヨーガヴァーシシュタ』のペルシア語訳の全文とサンスクリット語原典の対応箇所を対照させる。そして、原典中に用いられる政治・科学・宗教・文化などの諸概念を表す術語がどのように翻訳されているか、用例を網羅的に抽出してその内容を精査する。(3) 研究方法(1)で得られた知見を基に、4種類の異なる翻訳が作成された意義を、ムガル帝国の文化史上に位置づける。さらに、イランへの翻訳の伝播・影響に

ついて明らかにする。

4. 研究成果

研究方法 (1) について

アクバル宮廷で編纂されたファルムリー訳の校訂テキスト作成作業を、研究期間の延長込みではあるがひとまず完了することができた。ただし校訂作業の途中で、サンスクリット原典からの借用語のラテン文字転写をペルシア語テキストの合間に括弧つきで挿入する必要性を感じたため、引き続き借用語の解説を含めた改訂作業を、本課題の研究期間の終了後も続けている。一連の作業が終わり次第、ファルムリー訳の校訂テキストを出版する予定である。

研究方法 (2) について

本課題の研究期間中に、インド、パキスタン各地の写本図書館を訪れて、関連する作品の写本を収集することができた。『ヨーガヴァーシシュタ』サンスクリット原典と、それぞれのペルシア語訳との対照、術語・文章の比較研究については、サリーム皇子の命によるパーニーパティー訳と前述のファルムリー訳が、いずれもイブン・アラビーの存在一性論の影響を受けつつ、原典のヴェーダーンタ思想を存在の自己顕現過程として訳出していることが明らかになった。しかし、パーニーパティー訳が、自己顕現の起点となる絶対者に対して、ヴェーダーンタ思想における絶対者であるブラフマンの語を充てているのに対して、ファルムリー訳は存在一性論における絶対非限定存在への言及不可能性から、絶対者に対してブラフマンの語を充てることを回避していることが、研究の結果明らかになった。これは、パーニーパティー訳がイラーハーバードのサリーム皇子駐屯地において、ヴァラナシから招聘したヴェーダーンタ学者、パターン・ミシュラ・ジャージープリーとジャガンナタ・ミシュラ・バナラシーの協力のもとに作成されており、ヴェーダーンタ思想家たちの影響下に編纂されたことが予想されるのに対して、ファルムリー訳の編纂環境は不明ながら、ヴェーダーンタ思想家たちからは距離を置いた環境で、ファルムリー訳が編纂されたことが推測される。また、ファルムリー訳には、インドのそれぞれの学派における絶対者の名称が複数の箇所でも列挙されており（空論者にとっては空、唯識にとっては識、ニヤーヤ学派にとってはアートマン、など）このようなパースペクティヴィズム的な記述は、他のペルシア語訳には見られない、ファルムリー訳の特徴であることも明らかになった。ファルムリー訳の本文中において、ファルムリーは自らが思想家カビールの子であると自称しているが、この表明が、ファルムリー訳における絶対者に関する表現と関係があるかどうかは、更なる分析を必要とする。他方でダーラー・シュコー訳は、サンスクリット原典に含まれているヒカーヤト（挿話）の物語訳としての性格が強く、起点文化の思想の解釈には前二者ほど重視していないことが明らかになった。ファイズイーに帰される第4の翻訳については、研究期間中に十分な分析を行うことができなかった。

これらの研究で得られた知見については、国内・国外の複数の研究会・学会にて報告した。ただし論文等での文章化には至らなかったため、ファルムリー訳校訂テキストの出版と共に、論文執筆も引き続き進めていく。

研究方法 3 について

比較的短期間で相次いでパーニーパティー訳（1597-98年）とファルムリー訳（1602年）が編纂された事実に関して、近年 Azfar Moin らが提唱しているムガル帝国の神聖王権論と関連付けて、『ヨーガヴァーシシュタ』のメインストーリーがコーサラ国の皇子ラーマが最終的に生きながらの解脱を達成するものであるため、生きながらの解脱を果たした皇子 = 存在一性論における完全人間として、ムガル皇族たちは同作品の内容を受容し、王権強化のための手段としてペルシア語訳を命じたのではないかと、本研究課題の研究を通じて推測した。この推測は、2023年5月にマルセイユの EHESS オフィスで開催された講演会で言及した。こちらも研究方法（2）と同様に文章化にまで至っておらず、引き続き論文執筆を進めていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Aishima Hatsuki, Yucesoy Hayrettin, Michael Feener R., Otsuka Osamu, Ogura Satoshi, Kuroda Kenji, Aishima Hatsuki, Kalmbach Hilary, Salvatore Armando	4. 巻 126
2. 論文標題 The Wiley Blackwell History of Islam	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The American Historical Review	6. 最初と最後の頁 199 ~ 213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ahr/rhab063	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi OGURA	4. 巻 -
2. 論文標題 Rajatarangini (Zayn al-'Abidin translation)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Perso-Indica. An Analytical Survey of Persian Works on Indian Learned Traditions	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ogura Satoshi	4. 巻 12
2. 論文標題 In This Corner of the Entangled Cosmopolises: Political Legitimacies in the Multilingual Society of Sultanate and Early Mughal Kashmir	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Persianate Studies	6. 最初と最後の頁 237 ~ 260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/18747167-12341338	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ogura Satoshi	4. 巻 -
2. 論文標題 Jami' al-Tawarikh	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Perso-Indica. An Analytical Survey of Persian Works on Indian Learned Traditions	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi OGURA	4. 巻 86
2. 論文標題 Persian Historiography of Kashmir during the Gahangir Period I: The Intihab-i Tarih-i Kashmir	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 145-393
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小倉智史	4. 巻 88
2. 論文標題 まだ見ぬ等価を求めて ムハンマド・シャーハーバーディーの翻訳ストラテジー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 イスラム世界	6. 最初と最後の頁 29-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 7件)

1. 発表者名 小倉智史
2. 発表標題 前近代インドにおける一元論とスーフィズム
3. 学会等名 第61回現代中東イスラーム世界・フィールド研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 Non-Muslim Heroic Conquerors in Persian Historical Narratives: The Cases of Indic Rulers
3. 学会等名 34. Deutscher Orientalistentag
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小倉智史
2. 発表標題 アクトバル版Laghuyogavasisthaペルシア語訳における翻訳者ファルムリーの思想的立場 サリーム版との比較を中心に
3. 学会等名 インド思想史学会第29回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 In Search of Unseen Equivalence: Muhammad Shahabadi's Translation Strategies
3. 学会等名 Satoshi OGURA UE237 - Interactions between islamicate and indic societies in South and South-East Asia : comparative perspectives (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 Various Ways to Liberation: a Comparative Study in the Mughal Persian Translations of the Yogavasistha
3. 学会等名 AAS-in-ASIA 2020 Asia at the Crossroads: Solidarity through Scholarship (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 Towards a Comparative Study on Mughal Persian Translations of the Yogavasistha
3. 学会等名 International Centenary Conference on Indo-Persian Literature and Culture and Heritage of Professor S. A. H. Abidi (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 A Dialogue between the Buddha and a Celestial Being in the Zubdat al-Tawarikh of Abu al-Qasim Qashani (together with the counterparts in the Jami' al-Tawarikh of Rashid al-Din and the Devatasutra)
3. 学会等名 Reading two Persian episodes on the Buddha composed in Ilkhanid Iran
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 The Buddha's Prediction on the Future Maitreya in in the Zubdat al-Tawarikh of Abu al-Qasim Qashani (together with the counterparts in the Jami' al-Tawarikh of Rashid al-Din and the Maitreyavyakarana)
3. 学会等名 Reading two Persian episodes on the Buddha composed in Ilkhanid Iran
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ogura Satoshi
2. 発表標題 Part V Early Modernity and Civilizational Apogee (ca. 1453-1683)
3. 学会等名 The Book Launch of the Wiley Blackwell History of Islam (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小倉智史
2. 発表標題 南アジアにおけるサンスクリット古典の翻訳
3. 学会等名 ワークショップ「21世紀の人文知とは 世界の古典学から考える」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 Additional annotations on Indic/Kashmiri non-Muslim cultures, traditions, and knowledge in the Persian translation of the Rajataranginis
3. 学会等名 The 17th World Sanskrit Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小倉智史
2. 発表標題 近代以前の「ヒンドゥー」をめぐる自己・他者認識
3. 学会等名 日本南アジア学会30周年記念シンポジウム「ヒンドゥイズム再考：時代を超えた変動とその余白」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 Revisiting Sanskrit Epic-Puranic Elements in Rashid al-Din's History of India
3. 学会等名 The third Perso-Indica workshop (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 Between Story and History: Various attitudes toward Kashmir's pre-Islamic past by historians of the Mughal period
3. 学会等名 International Conference on Persianate Literature in India and Anatolia, Academy of Persian Language and Literature (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi OGURA
2. 発表標題 The A' in-i Akbari and Western Indology: With Special Reference to the Category of the Six Schools of Philosophy
3. 学会等名 The Sixth Perso-Indica Conference The Classification of Indic Knowledge at the Mughal Court: the A' in-i Akbari (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 八木 久美子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 748
3. 書名 イスラーム文化事典	

1. 著者名 C.S. Radhakrishnan & Hari Dutt Sharma ed.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 DK Publishers Distributors Pvt. Ltd.	5. 総ページ数 89
3. 書名 Sanskrit in relation with regional languages and literatures: select papers from the Panel on Sanskrit in Relation with Regional Languages and Literatures at the 16th World Sanskrit Conference (28 June - 2 July 2015) Bangkok, Thailand	

1. 著者名 Yasushi Tonaga and Chiaki Fujii ed.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Kenan Rifai Center for Sufi Studies	5. 総ページ数 375
3. 書名 Islamic and Sufi Studies in Academia: Rethinking Methodologies: Kyoto Kenan Rifai Sufi Studies Series 3	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
フランス	フランス社会科学高等研究院		